

16年の歩みを振り返って

長年にわたり市政を担ってきた元松市長が、4月28日に市長としての任期満了を迎えます。

本特集では、市長がこれまでの市政運営をどのように振り返り、何を大切にしてきたのかをインタビュー形式でお届けします。

現場で見えてきた課題やまちの変化、そして次の世代へ託す思い……。16年の歩みをたどりながら、これからのまちの未来に思いをつなぎます。

針のむしろからのスタート

45歳での初当選。就任当時は、周囲の環境も非常に厳しかったと伺っています。

管理職は全員が職員時代の先輩。さらに現職との激しい選挙戦を経た直後でしたから、どこへ行っても視線は厳しく、まさに「針のむしろ」に座っているような居心地の悪さを感じていました。

その逆境を、どのようにして乗り越えていかれたのでしょうか。

そこで学んだのは「誠意」の大切さです。ただ突っ張るのではなく、相手を立て、対話を重ねる。人間としての信頼を一つずつ築くことが、

市政を動かす土台になると確信した時期でもありました。

「迷ったらゴー」が道を切り拓く

16年間、リーダーとして数々の重い判断を迫られる場面がありました。

私のモットーは「迷ったらゴー」です。特に熊本地震のような有事の際、リーダーが立ち止まれば復興も止まってしまいます。

決断に伴う「不安」や「恐れ」は、どのようにコントロールしていたのですか。

失敗を恐れる気持ちがゼロなわけではありません。しかし、現場の声

を聴き、部下の意見を信じ、一度決めたら不退転の決意で前に進む。そのスピード感こそが、市の財政再建や困難な状況を打破するために不可欠だったと考えています。

「生の声」にこそ真実がある

市長は常に「現場主義」を掲げ、市民の皆さんのもとへ足を運んでおられましたね。

机の上の資料だけでは、暮らしの本物の悩みは見えてきません。現場に行き、皆さんの「本音」に触れることで初めて、血の通った施策が生まれます。座談会でいただいた小さな提案が、実際に市の制度として形になったこともあります。

一見小さな課題でも、そこに暮らし方にとっては一大事。その積み重

ねこそが、まちの満足度を左右すると信じて歩んできました。

職員と分かち合った情熱

行政の質を高めるための「組織改革」についても、強い信念をお持ちでした。

「市役所はサービス業である」と言い続けてきました。窓口での明るい挨拶や優しい対応は、行政への信頼の第一歩ですから。

職員の方々に対しては、どのような組織であってほしいと願っていましたか。

職員には、風通し良く意見を言い

合える環境で、誇りを持って働いてほしいと願ってきました。現場で汗を流し、私を支えてくれた職員一人ひとりの努力には、感謝の言葉しかありません。

宇土市を愛するすべての人へ

16年という長い月日。今、改めて振り返ってどのような思いが去来しますか。

長いようで、あっという間の16年でした。多くの壁にぶつかりましたが、市民の皆さんの支えがあったからこそ、最善を尽くすことができました。まちづくりに終わりはありません。宇土市には無限の可能性があります。

これからも、市民の皆さんが自分のまちに誇りを持ち、互いに助け合う「地域力」を発揮して、さらに素晴らしい宇土市を築いていかれることを心から願っています。

最後に市民の皆さんへ

感謝。おかげさまで

ありきたりな言葉かもしれませんが、この一言に尽きます。市長一人の力で出来ることは何一つありません。どんなときも共に歩んでくださった、市民の皆さんのお力添えのおかげです。本当にありがとうございます。

任期中(16年間)のできごと

- H22 ● 12月 宇土太鼓フェスティバル実行委員がくまもと県民文化賞を受賞
- H23 ● 3月 東日本大震災が発生
- 4月 網津小学校新校舎が落成
- 9月 宇土小学校新校舎・屋内運動場が落成
- H24 ● 7月 善道寺町に県内初となるコメリパワー店が開店
- H25 ● 8月 市民体育館に最新式冷暖房設備「エコウィン」を導入
- 11月 水町に複合型商業施設「クロス21UTO」がオープン
- H26 ● 7月 県内最古の駅舎・網田駅舎が国登録有形文化財となる
- H27 ● 7月 秋篠宮ご夫妻が轟水源と太鼓収蔵館をご視察
- H28 ● 4月 熊本地震が発生
- 6月 豪雨災害発生
- 8月 熊本地震で被災した市役所庁舎を解体
- H29 ● 10月 九州2店舗目となる大型ホームセンターカインズ熊本宇土店がオープン
- H30 ● 2月 網津防災センター・網津支所落成
- 10月 市制施行60周年を迎える
- R1 ● 5月 新元号「令和」へ改元される
- 9月 宇城地域で第74回熊本県民体育祭が開催
- R2 ● 新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い多くのイベントや行事が中止に
- R3 ● 5月 宇土市街地で東京2020オリンピック聖火リレーが開催
- 7月 東京2020オリンピックが1年延期され開催
- R4 ● 7月 住吉海岸公園に熊本復興プロジェクトの一環で、「ジンベエ像」が設置される
- 10月 宇土市消防団第3分団が県大会を制し、全国消防操法大会へ初出場
- 11月 宮庄町にある「轟貝塚」が国史跡に指定
- R5 ● 5月 宇土市役所の新庁舎が供用開始
- R6 ● 6月 植田明依さんと本橋馨さんが初代宇土市親善大使に就任
- R7 ● 1月 網田コミュニティセンター「しとらす」落成
- 3月 台湾・台南市と友好交流協定を締結



1、2. 座談会の様子。毎年7地区へ出向き市民の生の声に耳を傾けた。3. 熊本地震発生時、次々と舞い込んでくる情報は手書きで黒板にまとめられた。4. 庁舎が倒壊の恐れがあったため、屋外に張られたテント内で行われた地震発生当初の災害対策会議。5. 震災発生後から平成28年7月までecowin宇土アリーナで市役所業務を実施。

宇土市長 もとまつ しげき 元松 茂樹 (61)

プロフィール
昭和40年3月8日生まれ。
平成3年4月に宇土市役所に入庁。総務課人事係長、行政係長を経て平成22年4月に宇土市長に就任。令和8年4月28日まで4期16年務めた。
宇城市出身。趣味はまちおこし活動、料理、ボウリング。座右の銘は、進取敢為。

